

第 34 回 BC 州日本語弁論大会  
2022 年 3 月 05 日(土)  
優秀作品集

BC 州日本語弁論大会実行委員会

この作品集は、参加者原稿を元に BC 州日本語弁論大会実行委員が編集したものである。

## 第 34 回 BC 州日本語弁論大会

日時: 2022 年 3 月 05 日 土曜日 午後 12 時～17 時

場所: ブリティッシュコロンビア大学、アジアン・センター

### 実行委員会:

Dr. Rebecca Chau (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)  
Dr. Kyoko Kobayashi Hillman (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)  
Ms. Ihhwa Kim (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)  
Ms. Masumi Abe (UBC/ブリティッシュコロンビア大学)  
Mr. Choji Hayashi (Langara College/ランガラ・カレッジ)

### 司会者:

Spencer Yao and Sherry Zhang, UBC

### 審査員:

#### 高校部門、大学部門: 初級・オープン

Ms. Tomoko Bailey	JALTA
Ms. Naoko Hall	Kiyukai
Ms. Mari Miyamoto	West Vancouver Secondary/Sentinel Secondary
Ms. Lisa Yasui	Richmond Secondary School

#### 大学部門: 中級・上級

Mr. Kazuhiko Kadono	Listel Hospitality Group
Mr. Kaori Namiki	Konwakai
Ms. Seiko Roberts	Kwantlen Polytechnic University
Ms. Michiko Suzuki	UBC
Mr. Yasushi Yogo	Mitsui & Co. (Canada) Ltd.
Dr. Ayaka Yoshimizu	UBC

## 出場者:

### 「高校部門」

- |   |                           |   |
|---|---------------------------|---|
| 1 | Yasmin Hassan<br>ドラマQueen | Burnaby North Secondary School<br><i>Drama Queen</i>            |
| 2 | Ayumi Morita<br>失った意識     | Burnaby South Secondary School<br><i>Mindless Consciousness</i> |
| 3 | Jiachen Sun<br>笑顔         | Semiahmoo Secondary School<br><i>Smile</i>                      |

### 「大学部門 初級」

- |   |                                   |  |
|---|-----------------------------------|--|
| 1 | Kristy Han<br>感じ                  | UBC<br><i>Feeling</i>                              |
| 2 | Jason Lei<br>どうしたらノーを言えるでしょうか     | Syracuse University<br><i>How I Can Say NO</i>     |
| 3 | Karli Messer<br>見えない危機            | UBC<br><i>The Invisible Crisis</i>                 |
| 4 | Jack Peters<br>人との繋がり             | UBC<br><i>My Connections with People</i>           |
| 5 | Chenghao Wang<br>時には「NO」と言うことも必要だ | UBC<br><i>It's Necessary to Say 'NO' Sometimes</i> |

## 「大学部門 オープン」

- |   |                                  |   |
|---|----------------------------------|---|
| 1 | Michelle Anne Cheng<br>今の帯は何色ですか | UBC<br><i>The Colour of Your Belt</i>                               |
| 2 | Song Hyok Im<br>私の人生             | Langara College<br><i>My Life</i>                                   |
| 3 | Tomoki Jia<br>隠れた名所              | UBC<br><i>Hidden Sights</i>   |
| 4 | Wing Ki Mak<br>一期一会              | N/A<br><i>Once in a Life Time</i>                                   |
| 5 | Evan Musleh<br>文化と文化の間にある事の意味    | Langara College<br><i>The Meaning of Existence Between Cultures</i> |
| 6 | Xihan Yun<br>飛び込み台に立つ人生          | SFU<br><i>Life on the Diving Platform</i>                           |

## 「大学部門 中級」

- |   |                                     |   |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | Serena Chen<br>私の心を照らした人            | UBC<br><i>The Person Who Shined a Light into My Heart</i>   |
| 2 | Vandhana Kammampati<br>戻らない幸せ:人生の意味 | UBC<br><i>Happiness Without Return: The Meaning of Life</i> |
| 3 | Leo Lei                             | Western Washington University                               |

## ワクチンに対する見解

## *My Opinions on Vaccines*

- |    |                             |   |
|----|-----------------------------|---|
| 4  | Rui Li<br>私の人生を変えたコロナ       | UBC<br><i>Coronavirus Changed My Life</i>   |
| 5  | Ingrid Abigail Mas<br>小さな勝利 | UBC<br><i>A Small Victory</i>               |
| 6  | Luna Qi<br>ありがとう、日本語        | UBC<br><i>Thank you, Japanese</i>           |
| 7  | Astoria Tai<br>私の居場所        | UBC<br><i>The Place that I Belong to</i>    |
| 8  | Richard Wu<br>マスカレード        | UBC<br><i>Masquerade</i>                    |
| 9  | Xinyue Wu<br>未知に立ち向かおう      | UBC<br><i>Confront the Unknown</i>          |
| 10 | Yinan Zhu<br>私の脳が言いたいこと     | UBC<br><i>My Brain Has Something to Say</i> |

## 「大学部門 上級」

- |   |                      |                                   |
|---|----------------------|-----------------------------------|
| 1 | Johnny Cheng<br>悪夢の後 | UBC<br><i>After the Nightmare</i> |
| 2 | Yuval Kehila         | UBC                               |

「国民国家」を超える世界を想像する

*Imagining a World Beyond "Nation States"*

3 Ryan Sum

UBC

無限チェス

*Infinite Chess*

4 Tielia Young

UBC

カンフーはできません

*I Don't Know Kung Fu*

### 入賞者:

#### 「高校部門」

#### 初級

第1位 Yasmin Hassan  
ドラマクイーン

Burnaby North Secondary School  
*Drama Queen*

#### オープン

第2位 Ayumi Morita  
失った意識

Burnaby South Secondary School  
*Mindless Consciousness*

#### 中級

第2位 Jiachen Sun  
笑顔

Semiahmoo Secondary School  
*Smile*

## 「大学部門」

### 初級

第1位	Karli Messer 見えない危機	UBC <i>Invisible Crisis</i>
第2位	Chenghao Wang 時には「NO」と言うことも必要だ	UBC <i>It's Necessary to Say 'NO' Sometimes</i>
第3位	Kristy Han 感じ	UBC <i>Feeling</i>

### オープン

第1位	Michelle Anne Cheng 今の帯は何色ですか	UBC <i>The Colour of Your Belt</i>
第2位	Tomoki Jia 隠れた名所	UBC <i>Hidden Sights</i>
第3位	Song Hyok Im 私の人生	Langara College <i>My Life</i>
<u>努力賞</u>	Xihan Yun 飛び込み台に立つ人生	SFU <i>Life on the Diving Platform</i>

## 中級

第1位	Ingrid Abigail Mas 小さな勝利	UBC <i>A Small Victory</i>
第2位	Richard Wu マスカレード	UBC <i>Masquerade</i>
第3位	Vandhana Kammampati 戻らない幸せ:人生の意味	UBC <i>Happiness Without Return: The Meaning of Life</i>
努力賞	Luna Qi ありがとう、日本語	UBC <i>Thank you, Japanese</i>

## 上級

第1位	Tielia Young カンフーはできません	UBC <i>I Don't Know Kung Fu</i>
第2位	Johnny Chen 悪夢の後	UBC <i>After the Nightmare</i>
第3位	Yuval Kehila 「国民国家」を超える世界 を想像する	UBC <i>Imagining a Word Beyond "Nation States"</i>



## 受賞者のスピーチ集

第34回 高校部門 初級 第1位

Yasmin Hassan

ヤスミン・ハッサン

### ドラマクイーン

2歳のころから、母と姉は私を「ドラマクイーン」と呼んでいました。私はとても感情的で、情緒不安定で、何事も誇張する性格だったからです。

手に負えない子供でした。悲鳴を上げる以外に、自分が感じたことを表現することができませんでした。私にとってそれは難しくもどかしかったのです。

またとても頑固だったので、思うようにならないと叫び、まわりの声が聞こえませんでした。とても気難しい子供だったのです。

ある日、母はそんな私をピアノ教室に連れていきました。「とても退屈」「やりたくない!」と抗議しました。本当は怖かったのです。ところが、レッスンに参加すればするほど楽しくなってきました。不思議とピアノは私のしかめっ面を笑顔に変えてくれたのです。

また、自分の気持ちをコントロールすることを学び、自分を表現する新しい方法を、そこで見つけました。

それ以来、私はいつも自分から、進んで学び、気に入った曲を練習し、自分で曲まで書き始めたのです。ピアノを弾くと、自分の心の中を自由に表現できました。まったく違う表現ができたのです。私は夢中になりました。

音楽という素晴らしい自己表現のツールに出会えたのです。

そして今、私は子どものころとは、だいぶ変わりました。

ずいぶん落ち着いて、静かな人になってきました。授業中は自由に歌ったり、音楽を聴いたりすることはできませんが、時間のあるときは音楽を聴き、ピアノを弾き、歌を歌います。いつでも、どこでも音楽と共に朝が来て夜が来ます。音楽のない日常は考えられませ

ん。

成長するにつれて、自分を表現する方法が増えます。それが私にとっては音楽でした。それでも、やはり私はドラマチックな人間です。日本語の授業でスキットをするときは、いつでも好きなように劇的に演じます。本領発揮です。昔、母と姉に「ドラマクイーン」と呼ばれ、困らせていた私。今はみんなに楽しんでもらえる「ドラマクイーン」になれたようです。

皆さんの自己表現ツールは何ですか。

ご清聴ありがとうございました。

第34回 高校部門 オープン 第2位  
Ayumi Morita  
アユミ・モリタ

## 失った意識

毎日、若者は何時間画面を見てるかについて、エービーシー・ニュースが、調査をしました。その結果は驚くべきものでした。十代の若者は、娯楽のために一日六時間、画面を見ています。それはほぼ一日の四分の一です。ほかの調査を見ても似ている結果でした。

私は一週間前、バンクーバーをひさしぶりに歩いているとき、ジャパドッグのお店の前に立て看板があって、すごくおいしそうなお揚げパンにアイスクリームを挟んだものが書いてありました。ジャパドッグは知らない方々には、アメリカンホットドッグを和風にしたものです。そこで、看板を見た後、すごく食べたくなって、友達とお店の中に入りました。

待っている間、驚くことがありました。目の前のテーブルでお父さんとお母さんと、二人の女の姉妹が食事をしていました。それで、そのお姉さんは大体十歳ぐらいで、大きいアイパッドでゲームをして遊んでいました。今の時代はこの光景は珍しくありませんが、そのお姉さんの前にこのぐらいの身長の子が座っていました。それで、その妹が横に座っているお父さんの携帯で最近すごい人気になっているティックトックをスクロールしていました。この女の子が画面に夢中になっている姿を見てすごいショックを受けました。私は五歳の時は、iPhone4はまだなかったし、十歳の時は、毎日学校から帰ってきて、見たい番組がいつも四時半から始まっていたので、ずっとその時間になるまで待っていました。テクノロジーが本当に進歩したな、と思いました。

テクノロジーは検索とか、世界中にメッセージを送るのを簡単にしました。テクノロジーがあるからこそ、便利な世界を生きることができます。

いいことも悪いこともあります。家族が四人レストランにいるのに会話もなくお母さんも含め、三人は画面を見ていました。今の時代はそれが普通になってきたので、本当に悲しいと感じました。私がこの話をみんなに伝えたかったのは、テクノロジーが進歩している中でも、みんなに携帯を使っている時間を少しでも少なくしてもらいたいからです。

つまり、私が言いたいことは、画面をずっと見ると、周りの出来事や、人に注意をしていないし、目の前にある世界を見てほしいということです。一番大切な友達と家族のつながりをより深めることができるからです。

第 34回 高校部門 中級 第 2 位  
Jiachen Sun  
ジャチェン・サン

## 笑顔

笑顔は私たちの生活の中で一般的な顔です。ほとんどの場合、人々は笑顔を使って優しさや幸せをあらわしています。実際、人々は良い印象を得るために、他の人に前向きで善意を示さなければならないので、笑顔は人々が使用できる最も重要な表現の一つです。

特に知らない人と向き合うときにはまず笑顔になっています。その理由の一つは、相手に前向きな気持ちを表現したいということです。もう一つの理由は、あいてに安心してもらいたいということでもあります。もし誰が真面目な顔で私に話しをかけるとき、私はとても緊張になります。それは私に不快感を与えることにもなります。だから、私は他人にその気持ちを感じさせないように、また、プレッシャーをかけないように、他の人と話すときは笑顔になるように心をかけています。

実際に、笑顔は本当に素晴らしい表現だと思います。ただし、多くの人々が「偽の笑顔」というものもありますと言っています。たとえば、セールスマンが自分の商品を買ってほしい時、「偽の笑顔」が存在しているようです。それは彼らは仕事のために、微笑むしながら自分の仕事を行っていることを指しています。しかしながら、私は、お客様が彼らの目標を達成するために、気分を良くしなければなりません。偽物ではありませんと考えています。それは他の人に気分を良くしてもらいたいので、彼らは笑っています。ですから、心からではなくても、普通の笑顔です。

笑顔は魔法のような表現でもあります。人々はこのシンプルな顔を使って、他の人に喜びを感じさせることができます。ですから、もっと笑顔で、もっと楽しい気持ちを他の人と共有してみたいかがでしょうか。

ご静聴、ありがとうございました。

第34回 大学部門 初級 第1位  
Karli Messer  
カーリ・メッサー

### 見えない危機

バンクーバーでは、雨が降らない日のけしきはきれいです。バンクーバーのどこにいても、北をむくと山が見えます。西をむくと海が見えます。しかし、足の下を見て下さい。たいていコンクリートが見えると思います。山や海では生き物のいのちがあぶないので、大きな環境問題になっています。でも、それだけでなく、コンクリートの下にある土も環境の危機にあります。

小さじいっぱいの中、どれぐらいのびせいぶつが生きていますか。十億です。私たちの目には見えないのですが、微生物の役割は大きいです。BBCの「フォロー・ザ・フード」というシリーズによると、植物に大事な十七しゅるいのマイクロえいようそは土の中だけにあります。微生物は、ゆうきぶつの土で、えいようそを作ります。それで、丈夫な植物をそだてるために、ゆたかなゆうきぶつの土が大事なのです。

山や海と同じように、土の生き物のいのちがきけんにさらされています。世界をぶたいに土がきゅうそくに消えています。今の農業は持続可能ではありません。わかものは都市部に引っこすため、農業をする人が高齢化しています。そのため、だれも仕事を続けることができません。農家を廃業すると、その農地は売られます。すると、土を作るより、土をうしなう方が早いのです。他の環境問題と一緒にこくいっこくと世界のきちょうな土はうしな

われます。このじょうたいが続いたら、五十年後、百年後、世界てきな食糧安全保障のきじゅんをみたさないはずです。

かわる時は今です。世界的規模で、じぞくかのうな農業がひつようとされています。つまり、土と未来をまもるために、新しくて、じぞくかのうな方針をじっこうしなければいけないのです。もしみなさんが「世界を変えられたらいいけど、どこから始めたらいいか」わからなかったら、私のお願いを聞いていただけませんか。今日の私の話を聞いて、もっとも大切だと思ったことをだれかに一つ教えてください。私たちが土について話せば、見えない危機も見えるようになります。

第 34 回 大学部門 初級 第 2 位

Chenghao Wang

チェンハオ・ワオン

### 時には「NO」と言うことも必要だ

皆さん、こんにちは。今日私は「断る」ということについてお話します。皆さんは、時に「NO」と言いたい場面に出会うことがありますか。そんな時、時間がなかつたり、または、本当にしたくないことでも、すべての要求に同意してしまう人も多いのではないのでしょうか。この人たちは、自分の意に反して、よく不幸な気持ちになります。皆さんもこんな経験がありませんか。これは過去の私でした。

以前は、私は他人の気持ちをととても気にかけていて、他人の要望に直面した時、「NO」と言ったことは一度もありませんでした。無理なことにも、いつも同意しました。私は何度も、「今度こそちゃんと断ろう」と思いました。ある日、私はついにクラスメートの理不尽な要求を拒否しました。クラスメートは授業中によく聞いていなかったのので、数学の宿題ができなかったのです。朝、学校に来たとき、彼は「宿題を写させてくれない？」と聞きました。私は一瞬ためらいましたが、彼を拒否して言いました。「人の宿題を写すのは間違ってるよ。もし質問があるなら、僕が教えてあげるよ」と言いました。彼はがっかりして、少し怒っているようでした。そして結局、他の人に宿題を借りて写しました。そうやって、自分で学ばなかった彼は数学の試験で悪い成績をとりました。しかし、彼はそれから、いつも授業をしっかり聞いて、成績もだんだん良くなりました。誰かの理不尽な要求を拒否することは、時にその人を本当の意味で助けることになるようです。

多くの方は、人間関係が悪くなることを恐れ、断ることは申し訳ないと思っています。また、自分にも何か利益を期待するので、断りにくいかもしれません。この利益は必ずしもお金ではありませんが、他の人からの恩恵、特別な感情、将来の機会などかもしれません。しかし、そういうものは必ず得られるとは限りません。でも、今費やす時間と労力は明らかです。断ったり断られたりすることは、人が一生付き合わなければならない問題です。ある人はそのルールを知っていて、人から拒否された時、それを受け入れることができますが、中には争いに発展させてしまう人もいて、面倒なこともあります。しかし、人の要求を断ることは生存と同じ権利です。拒否することを習っても、何も失うことがないと思います。正し



い道を選び、別の暗い道を捨てた時、真の利益を得ることができるのです。世界中の人が理不尽な要求に「No」ということができれば、私たちの人生はよりよいものになるはずで  
す。

ご清聴ありがとうございました。

第 34 回 大学部門 初級 第 3 位  
Kristy Han  
クリスティー・ハン

## 感じ

「感じ」というものは面白いですね。日本語の漢字じゃなくて、感覚のほうの感じですか。この能力は多分世の中の人の唯一の共通点だと思います。文化と今まで経験してきたことが違って、触れるものじゃなくても、感じを共有することができます。不思議ですがここにいる皆さんも私と同じ感じがする時もあったと思います。

年齢によって感じ方も異なり、思い出も作れます。今でも子供の頃に感じた事を鮮明に覚えています。たとえば、お婆さんの柔らかい手を繋いで、アイスを食べながら散歩した時に照らすおひさまの光、その暖かい感じを忘れません。飛行機の窓から空を見ると陸が段々離れていって、体も軽くなって胸が高鳴る感じも好きです。それに高校の吹奏楽部で知った情熱の感じ。先生とメンバーのいる心強さ、会場に溢れる応援、皆で同じ気持ちを持って、最高です。「やっぱり、青春はいいな」と感じられます。

しかし、年を重ねると「感じ」を段々失っていく気がします。たとえば、いつも飛行機に乗るワクワクする感じが楽しみでしたが、前回乗った時、ずっと待っていたあの感じが来なくてちょっとショックでした。やはり大人になると、子供の頃の豊かな感性とみずみずしい感じがなくなってしまうんだと、その時の失望感から気づきました。ちょっと寂しい感じがします。

それに、いい「感じ」があれば、もちろん、嫌な「感じ」も山ほどあります。喧嘩で負けた悔しさ、発表する時心臓が飛び出してしまいそうな感じ、そして毎回映画が終わってしまった後の空虚な感じ。子供の頃から一番恐ろしくて忘れられないのは「死」を考える時の感じですか。寝るまえの静けさは不安でお腹がぎゅっとなって、そういう時、「死」の恐怖に襲われる、誰も自分の存在に気づかず、闇に落ち込む、その未知と空っぽの感じがすごく怖かった

です。それから、マンガの主人公が死ぬ前の時はどういう感じかを想像して、人々は同じ「感じ」を持つことができますが、一生誰とも共感できない「感じ」もあることに気づきました。

このように「いい感じ」も「嫌な感じ」もありますが、どちらもモチベーションにつながると思います。たとえば、テストの点数が惜しい時の悔しさを繰り返したくないなら次はもっと勉強しようとゆうやる気に繋がる、滑って膝をすりむいた時、今度はもっと気を付けようと感じる、成功をまた味わいたいなら、また頑張らなきゃと感じます。いい感じが思い出になるのと同様に痛みの記憶も消せません。だからこそ、悔いが残らないように稚拙な自分を進歩させる目標がでできます。

また、日常生活では細やかな幸せな「感じ」もあります。いい音楽を聞く時の感動や、炭酸を飲む時の爽やかな快感や、仲間と一緒に過ごした時の楽しい感じなど。こういう小さな満足感もいいですね。そして、これからも新たな「感じ」を知っていきたいです。勝つ時のぞくぞく感、好きな人ができた時のドキドキ感、夢を叶えた時のウキウキ感はどういう感じでしょうか。過去の懐かしさは思い出として残り、多分嫌な感じも増えるのですが、それこそ人生の色々な味を試すことですね。最後に、皆さんもいっぱい幸せを感じられるといいですね。感じがなくなるまで、一緒に楽しもう。

第 34 回 大学部門 オープン 第 1 位  
Michelle Anne Cheng  
ミッシェル・アン・チェン

## 今の帯は何色ですか

みなさん、こんにちは。毎年誰もがいくつかの目標を立てます。私も今年いろんな達成したい目標を考えています。将来の目標について考えることは、もちろん素晴らしいことですが、時々私は将来に集中しすぎて、振り返ってどこまで来たかを感謝することを忘れてしまうことがあります。

2年前に完全な初心者としてテコンドーを始めました。ある日、友人がテコンドーの黒帯だとわかった時、とても感動して、その友達のようになりたかったから、私もすぐにテコンドーをする気になりました。そして、始めたとき、私は一生懸命がんばると誓って、黒帯にな



るまで諦めないと決めました。だから、その時から、いつも考えていることはどうやって次の帯のレベルに到達できるかということです。「次に何に取り組むべきか」、「事前に自分で次のレベルのルーティンを学ぶべきだ」と、白から黄色、オレンジ、緑など、頭の中は常に次の帯のレベルの達成方法ばかり考えるようになりました。

帯の色を変えて、次のレベルに上がれば上がるほど昇級試験はさらに難しくなりました。ある日、試験の前に、先生はみんなに「自分のテコンドーのレベルより高度なレベルの試験なので、緊張を感じるのは普通だ。この試験で何点を獲得するかを心配するより、ここまで到達するためにどれだけ頑張ったかを思い出すように。」としました。私は先生のメッセージに心の底から感動しました。これをきっかけに次の帯のレベルのためにさらに一生懸命準備しました。でも同時に、今既につけている帯も、私が現在のレベルにたどり着くまで必死にした努力の証拠です。

成長の特定の段階を表しているから、帯はどんな色でも重要です。例えば、白は帆布のように、ここから自分がどんな人になるかという無限の可能性があります。黄色は地球のように、テコンドーの基礎を表し、緑は樹木のように、今より高い高さに成長するということです。そして最後に、黒帯は暗闇を恐れない勇気の象徴です。気が付いたことは、どんな帯をしていても、その帯をすることが過去の私の目標でした。つまり、今いるところは、かつて私が到達したかったところでした。

この考えは、武道をする人に限らず、みんなに当てはまると思います。テコンドー以外に、私は日常生活の中でも常に将来のことを心配していて、実際に現在は前に楽しみにしていたことの真っ只中にいることに気づいていませんでした。私はいつも次の目標を追い続けていますが、本当は、一時停止して、すでに達成したすべての目標を考えることは大切だと思います。ここまで到達するためにすべて費やした努力をよく振り返った方がいい

でしょう。急いで前進し続けることが期待される社会に生きていて、次の「大きな目標」を考えています。

未来のことばかり考えないで、前の業績を振り返って、過去の自己を称賛することも同様に重要だと思います。ゴールに到達したら、一度だけ祝うのではなくて、それは自分の人生の旅の一部になるからこそ、一生お祝いした方がいいでしょう。私のテコンドーの旅は、もう次の級や段を取得する方法ばかり考える旅ではありません。代わりに、テコンドーのトレーニング中にこの帯をしめる時は、いつでも、私がここに到達するためにどれだけ頑張ったのかを常に思い出します。

みなさんは、今の帯は何色でしょうか。そこにたどり着くためにどのくらい頑張ってきましたか？

ご清聴ありがとうございました。

第 34 回 大学部門 オープン 第 2 位  
Tomoki Jia  
トモキ・ジャ

## 隠れた名所

皆さんは旅行をする時前もって準備しますか。それともその場でその日の行動を決めるタイプですか。旅行をする度に様々な所を観光すると思いますが、一般的に言って多くの人は有名な観光地がある場所しか行かないと思います。なぜなら知名度があるので間違いなく面白いし、特別な感動があるはずだと思っているからです。

しかし私には有名ではなく地元の人達にしか知られていない隠れた名所が沢山あると思います。それで今日は私が知っている小さな名所をご紹介します。それは北海道、最北

端の町、稚内市に行く人たちが通過する、名寄市とその隣の下川町です。典型的な田舎であるこの二つの町は、北海道のような観光地が多い所ではあまり話題にもなりません、田舎特有の季節ごとの景色や風景など見る価値があると思います。

名寄の春は短いですが、とても美しい自然が町中に広がります。農業が多い名寄市には野菜や果物の花が咲き、町全体が色づきます。名寄市の風連町ではピンクに染まる時期もあります。それは芝しば桜ざくらであり、町をドライブすると畑の緑と芝桜のピンクの対比が大変綺麗に混ざって見えます。

名寄の四季で一番綺麗なのは夏です。サンピラーパークと言う公園が山の上であり、そこには大きな向日葵畑があります。麓から畑を見ると山の一面が黄色い絨毯に包まれているように見えてくるし、畑の中を歩くと小さな太陽に囲まれているように感じて気持ちが暖かくなると思います。それで町が向日葵関連の特産品を販売していますが、その内の一つに向日葵の炭酸水もありました。美味しいかと思って飲んでみたら、笑うほどまずかったのであまりおススメは出来ません。

秋になると長い冬の準備が始まり、無人の野菜売りが出てきます。そこではびっくりするほど安い野菜や果物が売っていて、にもかかわらず味はとても深くて甘ささえも感じられます。私が食べたカボチャの中で一番美味しかったのはその売場で買ったものでした。

冬になると非常に寒い名寄市と下川町の市民が作る氷のキャンドルが町中に置いてあって、冬しか見られない幻想的な世界が広がります。

お隣の下川町に行くとびっくりする場所があります。「中国にある万里の長城がもしも日本にあったらどんな感じになりますか？」と思った事があったらこの街にはその答えがあります。なぜなら桜ヶ丘さくらがおか公園こうえんというところに三二万里の長城があります。桜の季節に行くと長城を歩きながら桜を見ることが出来ます。中々行きにくい下川町でも面白い場所や美しい自然があり、探せば探すほど新たな発見が出てくる町だと思えます。

旅行をする度に道を真っすぐ歩くだけではなく、隠れた道を探ることが一番楽しみな事だと私は思います。旅行をする時にある程度の準備は必要だと思いますが、何事も決めつけずに異文化に身を任せれば絶対新鮮な発見があると思います。怖くてもその一步を踏み出したら、いつの間にか冒険に夢中になるはずだと思います。子供のような好奇心を持って見知らぬ恐怖を乗り越えると、人生を振り返った時に怖さではなく、ただただ一生記

憶に残る経験になると思います。計画通りの道を走るのも良いですが、たまに横にそれて知らない道を冒険してはいかがでしょうか。

第34回 大学部門 オープン 第3位

Song Hyok Im

ソンヒョッ・イム

## 私の人生

皆さん、初めまして。私の英語の名前はポール、本名(ほんみょう)はイム・ソンヒョッと申します。私は 1998 年に大阪で生まれ、小学 3 年生まで日本で過ごしました。両親は韓国人で、父は牧師で、母は韓国にいたときは看護師(かんごし)として働いていました。

皆さんは、自分自身の名前の由来(ゆらい)をご存知でしょうか。私は自分の名前やその意味に誇(ほこ)りを持っています。今日は、私の名前に込(こ)められた意味と由来を私の人生を通して、お話(はな)したいと思います。

私の名前は祖父がつけてくれました。私の苗字(みょうじ)イムは任せるという漢字の「にん」と書きます。ご存知の通り、仕事や責任(せきにん)を任せるという意味です。

幼い頃、私は家の庭で鶏を飼っていました。毎日、愛情と責任感を持って餌をやったり、小屋(こや)の掃除をしたり、散歩に連れて行ったりと、ペットのように育(そだ)てました。ある日、のら猫が私の鶏を追いかけたため、鶏は庭(にわ)にある高い塀から飛び下り、道路に飛び出しました。私はその時、鶏が怪我をすると思い、無我夢中(むがむちゅう)でただ助けようと、塀(へい)から飛びおりました。そして、全治(ぜんち)2ヶ月の怪我を足に負ってしまいました。これは愚かな行為(こうい)に思えるかもしれませんが、しかし、鶏の命を育てるという経験から得(え)た責任感(せきにん)は鶏を救うことができました。だからこそ、後悔はありません。

下の名前のソンヒョッのソンはひじり「聖」という漢字で、知恵(ちえ)、慈悲(じひ)深く、人々に分け隔(へだ)てなく、いつも手助けする人になって欲(ほ)しいという意味がこめられています。幼い頃から私は体の不自由な子供を見ると気の毒だと思っていました。祖父は、「ソンヒョッ、君は弱い立場の人々を手助けする人になるんだよ。」と、よく言い聞かせました。

ソンヒョッのヒョッの意味ですが、漢字では赤を二つ並(なら)べて「赫(かく)」と読みます。これは赤々(あかあか)と燃えるように輝くという意味があります。祖父は私にいつでも明るい心を持って生きて欲しいとこの名前に願いを込めました。実際(じっさい)、私は幼い頃、元気で明るいやんちゃな子でした。幼稚園では、いつも走り回り、友達にちょっかいをだし、幼稚園の先生に迷惑をかけていたことを覚えています。

しかし、そんな明るい性格(せいかく)はいつまでも続きませんでした。小学 3 年生になった時、

父が仕事のストレスが原因でうつ病になりました。父は仕事を辞めざるをえなくなり、私たち家族は韓国にいる祖父の家で世話になることになりました。引っこしたばかりのころ、学校では日本から来た日本人だと言う理由で苛(いじ)められたり、韓国語の発音がおかしいなどと言われました。だから小学校生活はいつも下を向いている日々でした。一番苦労したのは、韓国の生活に慣れることでした。日本と韓国は近い国ではありますが、言葉、文化、食べ物、習慣(しゅうかん)、歴史に関(かん)する考え方など違いが多くあります。しかし、祖父が韓国語や様々(さまざま)な韓国の価値観について教えてくれたおかげで中学1年生になったころには韓国の生活に不自由(ふじゆう)なく過ごせるようになりました。3年後遂(つい)に父のうつ病は無事治りました。

やっと、韓国の生活に慣れたと思ったら、今度は父の仕事の関係でカナダに行くことになりました。カナダに来た時、英語を書いたり話すことができず、何度韓国に帰りたと思ったことでしょう。しかし、韓国の生活(せいかつ)で、さまざまな苦労を乗り越えた経験のおかげで、カナダでの苦労も乗り越えることができ、無事に高校を卒業する事が出来ました。それにカナダでのある出会いが私の人生を変えてくれました。父の知り合いの紹介で、自閉症の子供の治療をする会社に勤めることになりました。私は元々、子供たちと遊ぶことが大好きでこの仕事は然程(さほど)大変ではないと思っていました。しかし、実際(じっさい)は、自閉症の子供たちと遊ぶのは凄く難しい事でした。時々子供に噛まれたり、殴られたり、泣いたりされ、働いてきた六年間は決(けつ)して順調(じゅんちょう)だったわけではありません。正直言うと仕事を辞めたいと思ったこともあります。

しかし、諦めそうになる時、祖父が私の名前に込(こ)めた、「人々をわけへだてなく、手助けする人になれ。明るい心を持った人になれ。」という言葉思い出します。祖父がつけてくれた自分の名前をとて誇(ほこ)りに思っています。私は名前に相応(ふさわ)しい人間になれるように、真摯(しんし)にイム・ソンヒョツとして努力し、将来は自閉症の子供たちのセラピストになってその子供たちの為(ため)に奉仕する人に成(な)りたいと思うのです。ご清聴(せいちょう)ありがとうございます。

第34回 大学部門 オープン 努力賞

Xihan Yun  
シハン・ユン

## 飛び込み台に立つ人生

私は飛び込み選手です。幼い頃から、大変つらい練習をしてきました。他の選手より、体が少し大きくて、柔らかくないので、回転が一番苦手でした。また、高い所が怖いので、10メートルの飛び込み台に立って、下を見るたびに恐怖感があります。幸いに、監督はいつも私を励ましてくれて、その恐怖心を克服しました。そうじゃなかったら、諦めたでしょう。



飛び込み競技の採点基準は、審査員によって、それぞれ異なります。多くの人は、水しぶきの大きさが一番重要な物だと思います。私からみれば、入水時の水しぶきの形と難易度や美しさは、どれが重要だという問題ではなく、それまで、選手たちが練習してきた過程やその結果が重要であると思います。結果だけが重要なのではなく、それに、選手たちは、どのような思いで練習に励んできたのかも重要だと思います。去年の東京オリンピックに日中両国の二人の選手、全く異なる経歴もそれを証明してくれました。

日本人選手の寺内健(てらうち けん)さんは、大会に参加した時、すでに 40 歳になっていました。1996 年から、6回のオリンピックに参加しました。寺内選手は 2009 年に一時的に引退しましたが、その後まもなく復帰しました。去年、コロナに感染しましたが、それにも打ち勝つことができました。まだ達成していませんが、目標は日本初の飛び込み競技のメダルを獲得することです。決勝戦では、寺内選手は最下位でしたが、それでも全力を尽くしました。最後の試合が終わったときは、すべての人が拍手を送りました。

中国の一番若い選手、14 歳の全紅嬋(ぜん こうせん)さんは、466 の高得点で金メダルを得ました。しかしそのまえ、彼女の人生は順風満帆ではありませんでした。彼女は貧しい家に生まれ、母も病気で苦しい日々を送っていました。そこで、全選手はぜひこのチャンスを活かしてすべてを変えようと思いました。彼女はラッキーな人でもありました。なぜなら、東京オリンピックの開催遅延によって、大会に参加できる年齢に達したばかり。それで彼女は金メダルを獲得し、人生を変えました。飛込台に立つ全選手は人生の美しい水しぶきをあげました。

寺内選手と全選手は、経歴がそれぞれ異なっていますが、多くの人に認められています。彼らは大会に参加するたびに人生の飛び込み台にも立つこととなります。飛び込みの過程は空中の動作は、軽くて美しいものがあって、力強いものもあります。そして、水しぶきは色々な選択肢で積み上げた結果です。現在、私はまだ 207C(後ろ宙返り3回半抱え型)という動作を完璧にすることができません。私にとって、それはあまりにも難しいです。人生も同じです。私はみんなが選んだ選択肢を見逃したこともあります。みんなの人生が同じじゃないから、残念なこともありません。

人生の飛び込み台に立つみんなが正しい選択肢を選んで、自分だけの美しい水しぶきをあげることを願っています。

ご清聴ありがとうございました。

第 34 回 大学部門 中級 第 1 位  
Ingrid Abigail Mas  
イングリッド・アビゲール・マス

小さな勝利(しょうり)

日本語のクラスで、若者(わかもの)の「スポーツ離(ばな)れ」が進んでいるというトピックについて話し合いました。ちょうど北京(ぺきん)オリンピックの時でしたが、オリンピックに関心(かんしん)のあるクラスメートはまったくいませんでした。それは、問題だと思います。スポーツ嫌(ぎらい)の人ばかりの社会(しゃかい)を作ってはいけないと思います。ぜひ私の経験をお話しさせてください。

子供の時、母に連れていかれてバドミントンクラブに入り、このスポーツで挫折(ざせつ)と挑戦(ちょうせん)を経験しました。

ある日、私はクラブに入ったばかりのシャンという十歳の男子とシングルス試合をしました。コートに入った時、急に鳥肌が立って、手と足が震えました。「シャンは強そうだ」とすぐ直感(ちよっかん)しました。試合(しあい)が始まった時、シャンの強さがすぐ分かりました。私がサーブをすると、シャンはそのシャトル、シャトルというのは羽なんです、そのシャトルをいきなりスマッシュしました。次の瞬間(しゅんかん)、そのシャトルが私の顔を打(う)ちました。まるで、平手打(ひらてう)ちされたような痛みでした。試合が続くと、シャンのスマッシュも続きました。そのスマッシュの速さと正確(せいかく)さは初めて経験したものでした。試合は二ポイント対(たい)二十一ポイントという結果で私は悲(かな)しさと悔(くや)しさでいっぱいになりました。

試合の後(あと)、顔や手や足のあちこちに傷があることに気が付きました。その夜(よる)、晩ご飯を食べる気になれず、自分の部屋にいたら、母(はは)は私の様子を心配して部屋に来てくれました。私はシャンとの試合の時の恥(は)ずかしさと悔(くや)しさを涙(なみだ)を流(なが)しながら説明しました。

そして、私の話を聞いた母の言葉に驚(おどろ)きました。母は「次はシャンに五ポイント取ったらどう？ すぐに勝とうと思っても無理。誰でも一日で強くなれないから。」と言ったんです。

私は勝つことばかり考えていた自分を恥ずかしいと思いました。本当の敵(てき)はシャンではなく、自分だということに気が付きました。正確(せいかく)には昨日の自分です。それから、練習の時、コーチにスマッシュの返(かえ)し方(かた)を教えてくださいました。少しでも時間があつたら、他の選手(せんしゅ)のプレイスタイルをじーっと見ていました。そして、シャンとまた試合をする日が来ました。またシャンに負けましたが、それほど悔(くや)しくありませんでした。今度はシャンから五ポイントも取れましたから。しかも一回だけですが、シャンのスマッシュを返せたんです！

試合に負けて挫折(ざせつ)した時、どう考えるかが大事なのです。負けが悔(くや)しくて逃(に)げたいだけのものなのか、次へ進(すす)むための大切(たいせつ)な一歩であるかを決めるのは自分です。強さも成功(せいこう)も簡単(かんたん)には成(な)し遂(と)げられない

ものです。強さも成功も小さな進歩の積(つ)み重(かさ)ねです。二ポイントしか取れなかった試合も五ポイントしか取れなかった試合も両方(りょうほう)とも私の大切なステップです。「昨日の自分」を反省(はんせい)して少しずつ改善(かいぜん)していこうとする限(かぎ)り、それが必ず勝利に繋(つな)がります。

こんなふうに出た時の痛み、挑戦(ちょうせん)の喜び、スポーツから学べることがたくさんあります。今、振(ふ)り返ると、母がこのスポーツをさせてくれたことにとっても感謝(かんしゃ)しています。スポーツが教えてくれたことは、今私がこのスピーチコンテストに出ていることにも繋(つな)がっています。私のようなスポーツ好(ず)きの子どもたちが社会に増(ふ)えることを心から願(ねが)っています。聞いてくださってありがとうございました。

第 34 回 大学部門 中級 第 2 位

Richard Wu

リチャード・ウー

## マスカレード

皆(みな)さん、人生(じんせい)の道(みち)を歩(ある)いていて、迷(まよ)ったことがありますか。例(たと)えば、自分(じぶん)のしたいことができないとか、自分(じぶん)の言(い)いたいことが言(い)えない状況(じょうきょう)に苦(くる)しんだりしたことはありませんか。でもそういうことはよくあることで落(らく)胆(たん)する必要(ひつよう)はないのかもしれない。むしろ、私はこれをマスカレードの幕間(まくま)、つまりインターミッションと考(かんが)えました。一人(ひとり)になって、私は社会(しゃかい)に必要な(ひつよう)な仮面(かめん)を脱(ぬ)いで、自分自身(じぶんじしん)を振(ふ)り返(かえ)ることができました。

パンデミックが始(はじ)まる前(まえ)に、私(わたし)は日本(にほん)で英語(えいご)を教(おし)える JET プログラムに二年続(にねんつづ)けて申(もう)し込(こ)みましたが、選(えら)ばれません。そして故郷(こきょう)の香港で 1 年間過(ねんかんす)ごした後(あと)、カナダに戻(もど)ったとき、私(わたし)は世界(せかい)から取(と)り残(のこ)されたような気持(きもち)になりました。結婚(けっこん)して家族(かぞく)を持(も)った友人(ゆうじん)もいれば、望(のぞ)んでいた仕事(しごと)を見(み)つけた友人(ゆうじん)もいました。まわりの変化(へんか)を見(み)た時(とき)、私は自分に私は何をしているのか、私はこれから何(なに)をしたいのかと自問(じもん)しました。

私の夢(ゆめ)は海外(かいがい)で働(はたら)くことですが、その夢を両親(りょうしん)、特(とく)に母(はは)に伝(つた)えると、母はいつも夢を諦(あきら)めるようにあっさりと言(い)って、医者(いしゃ)や弁護士(べんごし)などの経済的(けいざいてき)に安定(あ



んてい)したキャリアを勧(すす)めます。私は何回(なんかい)も夢を説明(せつめい)して、説得(せつとく)してみても、母は納得(なつとく)してくれません。当初(とうしょ)、私は腹(はら)を立てて、母の気持(きもち)が理解(りかい)できませんでした。しかし言(い)い返(かえ)せなかった。ある日、友達(ともだち)に悩(なや)みを話(はな)すと、彼(かれ)は、「人生(じんせい)においては、家族(かぞ)や親戚(しんせき)に対(たい)してであろうと、職場(しょくば)であろうと、俺(おれ)たちは大事(だいじ)な小道具(こどうぐ)である仮面(かめん)をいつも被(かぶ)っている。一度(いちど)被ると、これは外(はず)せなくなる。」と言(い)いました。振り返(かえ)ってみると、過去(かこ)も現在(げんざい)も、私(わたし)を始(はじめ)、みんながステージで演技(えんぎ)をしていて、仮面(かめん)で本当(ほんとう)の気持(きもち)を隠(かく)していることに気(き)づきました。しかし、仮面(かめん)を長時間(ちょうじかん)着用(ちやくよう)しているうちに、本当(ほんとう)の自分(じぶん)自身(みづか)を見失(みうし)なってしまうのかもしれない。そう考えて、改(あらた)めて両親(りょうしん)の理屈(りくつ)、そして私の問題(もんたい)を分析(ぶんせき)してみました。

私の母(はは)は長女(ちょうじょ)です。兄弟(きょうだい)と両親(りょうしん)に対する責任(せきにん)と、社会的(しゃかいてき)な圧力(あつりょく)、そして会社(かいしゃ)ではマネージャーとしての役割(やくわり)とともに、彼女(かのじょ)の強(つよ)さ示(しめ)す仮面(かめん)を着用(ちやくよう)してきました。そのせいで、彼女は自分の気持(きもち)に蓋(ふた)をして、本当(ほんとう)の自分(じぶん)自身(みづか)を見失(みうし)ったのかもしれない。この仮面(かめん)は長(なが)い間(あいだ)彼女の立場(たちば)では効果(こうか)があったので、それを外(はず)す、または変(か)える必要(ひつよう)がなかったのでしょうか。それには同情(どうじょう)します。生(う)まれた家(いえ)、時代(じだい)のせい、母(はは)はしたいことができなかった。だから、母(はは)の望(のぞ)みが私(わたし)に投影(とうえい)されたのかもしれない。

私も家族(かぞ)をがっかりさせたり恥(はじ)をかかせたりしたくなかったので、いい息子(むすこ)になり、母(はは)を理解(りかい)しようとするこの仮面(かめん)をつけ続(つづ)けました。私も母(はは)と同(おな)じで、自分の本当(ほんとう)の気持(きもち)が表現(ひょうげん)できません。たぶん、その仮面(かめん)をずっと被(かぶ)っているから、人生(じんせい)の道(みち)で迷(まよ)っていたのかもしれない。私は自分の悩(なや)みの根源(こんげん)を分析(ぶんせき)することができました。仮面(かめん)は私(わたし)に違和感(いわかん)を与(あた)えますが、それを被(かぶ)って踊(おど)るマスカレードというステージから満足感(まんぞくかん)を得(え)ることもできます。今(いま)私が被(かぶ)っている仮面(かめん)で、自分(じぶん)が誰(だれ)なのか、自分の限界(げんかい)を知(し)ることができ、自分(じぶん)自身(みづか)をもう少し(すこ)し理解(りかい)することができました。

シェイクスピアが「世界(せかい)はすべて舞台(ぶたい)であり、すべての男性(だんせい)と女性(じょせい)は単(たん)なるプレーヤーである」と述(の)べたように、人生(じんせい)は終(お)わりのないマスカレードです。私たちの仮面(かめん)は目的(もくてき)そのものではなく、目的(もくてき)を達成(たっせい)するための道具(どうぐ)です。仮面(かめん)は人間(にんげん)の本

性(ほんしょう)から生(う)まれたものであり、社会(しゃかい)とのつながり、生(い)き残(のこ)りのために必要(ひつよう)なデバイスです。この幕間で、私は大人(おとな)になって、自分自身についてもっと分かるようになって、そして親(おや)と子(こ)の葛藤(かつとう)のメカニズムも分(わ)かったのです。幕間を終えて、また仮面を付(つ)けてマスカレードにもどります。勇気(ゆうき)を出(だ)して踏(ふ)み出(だ)して、踊り続けながら、母の仮面を貫(つらぬ)いて、私の願(ねが)いや言(い)いたいことを母に伝えて、もう一度(いちど)彼女とつながってみせます。そんな日(ひ)が来(く)ると深(ふか)く信(しん)じています。

マスカレードが間(ま)もなく再開(さいかい)されます。皆さんも、シャル ウィ ダンス？

第 34 回 大学部門 中級 第 3 位  
Vandhana Kammampati  
ワンダナ・カマンパティ

### 戻らない幸せ:人生の意味

「戻らない幸せがある事を最後にあなたが教えてくれた。」この歌詞はよねずけんしのレモンという歌から取ったフレーズです。皆さん、これを聞くと何か思い出しますか。私はこれを聞くと特に子供の頃の懐かしい経験を思い出します。

子供の頃、両親が会社へ行く時、祖父母の家に、つまりおじいさんとおばあさんの家に預けられました。その間、私の優しい祖父母は私に本やアニメを見せてくれたり、空腹の私に美味しい食べ物を作ってくれたりしました。それに、私の歌や踊りがどんなに下手でも、いつも温かく応援してくれました。

それに、祖父母からいろいろなことを習いました。その中で、当時私が住んでいた南インドの大都市の人が変だと思えるような忍者スキルも教えてくれました。例えば、ビルのかいからかいへ登ったりすることです。

また、こんなこともありました。祖父母の家の庭にあったグアバの木はすごく大きくて、いつも美味しい実をつけていました。小さいころから、その木のグアバを棒で取る祖父を見て、私もやりたかったです。しかし、祖父は「棒はだめだ、登り方を教えるよ」と言ってから、以外に何の心配もなく、木に登って行ったので、少し緊張して見ていた私は本当にびっくりしました。と言っても、私も祖父のように怖がらずに木に登れるようになりたいと思いました。その日は何時間も祖父に教えてもらい、ついに自分で木に登って果物を取った時、

私は、上から祖父の誇らしげな顔を見ました。その時から私たちはいつも一緒に果物を取って、祖父母と私の三人で楽しく食べました。

祖母もたくさん教えてくれました。その中には友達と遊ぶ、隠れん坊で、隠れられるようなひみつの場所と、伝統的な髪のを飾る花輪の作り方や手のひらと甲にするヘンナタトゥーの描き方も教えてもらいました。祖母がヘンナという木から葉を取り、それで作ったペーストで、私の手のひらにきれいなタトゥーを描いたのは、楽しい思い出です。

ただし、いつも楽しかったというわけではなく、少しきびしかった時もありました。南インドの保守的な地域に住んでいたため、出かける時は保守的な服以外にノースリーブのTシャツなどを着ていたら、怒りました。やっぱり、それはただ、私の安全や、人に間違っただけで判断されないようにと考えていたからこそではないかと思います。

また、十歳頃、クリケットをしている時ボールをなげて、うっかり窓を壊してしまいました。おこられるとおもっていたら、祖父は心配そうな顔で「けがをしなくてよかった」と言ってため息をつきました。本当に私の健康のことを考えてくれているとわかった瞬間でした。

ところが私が16歳くらいの時に、二人とも一年で、病気でなくなってしまうました。病気だった時も、二人は何よりも、私のことを心配してくれていました。祖父母が死んで、最後に教えてくれたのは戻らない幸せがあることです。

やっぱり過去に戻れるなら、祖父母と一緒にいた時間に戻りたいです。もう一度祖父母の笑顔を見たい、もう一日一緒に過ごしたい、もう一度一緒にご飯も食べたいです。しかし、それは現実にできませんよね。

そんな、戻りたくても戻れないひと時があるのは人生をもっと特別にしてくれるのではないのでしょうか。私にとってそんなひと時を作るのは一番大事な人生の意味です。どんなに小さくても、ある日振り返った時、精一杯生きたと思えるような戻らない幸せなひと時をたくさん作りたいと思います。

これが私の「戻らない幸せ:人生の意味」という話でした。聞いてくださって本当にありがとうございました。

## ありがとう、日本語

みなさん、こんにちは。ルナ・キと申(もう)します。私(わたし)は友達(ともだち)に「どうして日本語(にほんご)を勉強(べんきょう)するの?」と、よく聞(き)かれます。「アニメが好(す)きななの?あ、分(わ)かった!日本のアイドルが好きなんでしょう?」とみんながそう思(おも)うのですが、実(じつ)は、違(ちが)います。日本語を勉強する理由(りゆう)は私も何度(なんど)か考(かんが)えたことがありますが、多分(たぶん)日本語は私にとって特別(とくべつ)な存在(そんざい)なのだという結論(けつろん)に達(たっ)しました。

私が初(はじ)めて日本語のコースを取(と)ったのは高校生(こうこうせい)の時(とき)です。気持(きもち)の暗(くら)い時(とき)でした。その時、私は15歳(さい)で、一人(ひとり)で中国(ちゅうごく)からカナダに留学(りゅうがく)しました。小(ちい)さい町(まち)の出身(しゅっしん)なので、大都会(だいてかい)から来た留学生のみんなと比(くら)べて、英語(えいご)も下手(へた)でしたし、それまで殆(ほとんど)外国人(がいこくにん)も見(み)たことがなかったので、留學生活(せいかつ)になかなか慣(な)れることができませんでした。その時、私が一番怖(いちばんこわ)いと思っていたのは英語でした。クラスの話(はな)し合(あ)いで一生懸命何(いっしょうけんめい)にか話(わ)そうとしても、緊張(きんちょう)しすぎて気絶(きぜつ)しそうなほど、何も話(わ)せませんでした。結局(けっきょく)、それを知(し)らなかった先生(せんせい)に「あなたは、全然頑張(ぜんぜんがんば)っていないね」と怒(おこ)られました。せっかくカナダに来(き)たのに、こんなに情(なさ)けなくて、私は親(おや)に本当(ほんとう)に申(もう)し訳(わけ)ない気持ちになって、自分(じぶん)は最悪(さいあく)だと思いました。

長(なが)い間(あいだ)、私はいつも落(お)ち込(こ)んでいて、人と話(わ)すのを避(さ)けていました。でも、高校二年生(にねんせい)の時、私は日本語のクラスに入(はい)りました。それが、私の転機(てんき)です。

日本語のクラスに入って最初(さいしょ)に感(かん)じたのは、親近感(しんきんかん)です。まず、高校の日本語の先生は中国語も上手(じょうず)に話(わ)せて、中国語でジョークを言(い)ってくれたので面白(おもしろ)くて楽(たの)しかったです。また、いつもまず授業(じゅぎょう)の前(まえ)に、学生は起立(きりつ)して、先生にお辞儀(じぎ)をしながら「おはようございます」と挨拶(あいさつ)して、そして先生も学生に挨拶(あいさつ)を返(かえ)したんですが、そういうことは中国でもしていました。しかも、日本語のクラスでは試験(しけん)の日(ひ)に先生はその挨拶(あいさつ)を「頑張(がんば)ってください!」に変(か)えて、私たちは「頑張ります!」と返事(へんじ)をするという約束(やくそく)があって、私はそれが大好きでした。なぜか、すごくやる

気ができました。それに、クラスメートは大抵東(たいていひがし)アジアの学生なので、みんな多(おお)くの共通点(きょうつうてん)がありました。例えば、褒(ほ)められた時には「ありがとう」と言わないで「いいえ、まだまだです」と言うべきだという気持ちがみんなにもよくわかりました。だから、その時の私にとって、日本語の教室(きょうしつ)は家(いえ)のように、入ると私をすぐ安心(あんしん)させてくれる場所(ばしょ)でした。

その家のような教室で、私たちは折(お)り紙(がみ)を折(お)ったり、年賀状(ねんがじょう)を書(か)いたりして、たまに授業がない日も一緒(いっしょ)に宮崎駿(みやざきはやお)の映画(えいが)を見(み)たり、ゲームをしたりしました。なぜか分(わ)かりませんが、日本語の先生とクラスメートは全員(ぜんいん)優(やさ)しい人だと思えました。高校三年生の時、私はみんなの前(まえ)でパートナーと会話練習(かいわれんしゅう)をしている時、会話の内容(ないよう)を忘(わす)れてしまいました。その時期(じき)は大学の申し込(こ)みのことでストレスが多すぎたので、私は急(きゅう)に泣(な)きました。でも、なんとか思い出して会話が終(お)わると、みんな拍手(はくしゅ)をしてくれて、先生が「大丈夫(だいじょうぶ)? しばらく外(そと)に出(で)てもいいですよ」と言ってくれました。そしてしばらくして私が席(せき)に戻(もど)ったら、隣(となり)のクラスメートは「誰(だれ)かにいじめられたの? 」と親身(しんみ)になって聞いてくれて、「ぜひ私に話してね! 助(たす)けてあげるから」とも言ってくれました。

日本語のおかげで、新(あたら)しい環境(かんきょう)に来て初めて幸(しあわ)せを感じました。日本語のクラスは、悲(かな)しい心(こころ)を慰(なぐさ)めてくれて、私をしっかり支(ささ)えてくれました。それで、私は言語(げんご)を学(まな)ぶということは、少しずつ人間関係(にんげんかんけい)を作(つく)り、それを大事(だいじ)にしていくことだということに気(き)が付(つ)きました。日本語の教室で、私たちは自分が言(い)いたいことを日本語で言(い)って、善意(ぜんい)を伝(つた)えて、そして友達(ともだち)になります。高校の教室を出(で)て、大学の日本語のクラスに入(い)っても、私はいつもそれを感じています。私は「ありがとう」という感謝(かんしゃ)の気持ちをどうしてもここで言(い)いたかったのです。

ご清聴(せいちょう)ありがとうございました。

第 34 回 大学部門 上級 第 1 位

Tielia Young

ティエリア・ヤング

カンフーはできません



私は 2010 年に移民してから、ずっと変わった願いを持ってました。差別されてみたかったのです。それも映画でしか見ない、「中国人だからカンフーできるでしょう」みたいなばかげた偏見を体験したかったのです。ところがバンクーバーは多様な文化に慣れていて私の願いは叶いそうにないと思いました。

その後 2014 年に一度中国に戻りました。四年ぶりの里帰りでいきなり銀行カードが ATM に飲み込まれるトラブルが起きました。窓口で助けを求めて、カナダの ID を差し出した途端、掛かりの人の顔色が変わりました。それまでの接客顔が消え、フンと鼻を鳴らして、「なるほど、帰国子女ね」とつばを吐くように呟きました。それを聞いた周りのお客さんの目線も一気に冷たくなりました。そのとき中国では帰国子女に対して傲慢でクレームしがちなイメージを持たれていました。私は海外の ID を持っているからだからきっとわがままな要求をしていると思われたのでしょうか。私の願いは思いもよらぬ形で叶いました。生まれ育った故郷で、一番知っている言語で、同じ肌色を持つ人々から、差別を受けました。私を丸裸にするような冷たい視線の中で、私は今まで味わったことのない孤立感を覚えました。

私はバンクーバーに戻って、改めてバンクーバーに偏見差別がないことに感嘆しました。しかし、ある日、ある人がコーヒーショップの店員と揉めているのを見ました。その人は注文を取り替えてほしいのに店員に拒否されたそうでした。そして周りの人たちは、中国で見た、あの冷たい眼差しでその人を見ていました。その人はホームレスだったのです。私はその人に自分を重ねました。その人もまた、自分の知っている街で、自分の知っている言語を話しながら、自分と同じ出身の人々から、偏見に満ちた視線を浴びていました。そして恥ずかしながら、故郷で差別を体験しなかったら、私も同じ視線を送っていたのでしょうか。

最近ではコロナが広がり、私達はマスクをつけ始め、私はより一層視線に敏感になりました。私達バンクーバーの人はいかなる民族や宗教の人に対しても温かい目をみせようとしています。ホームレスをみると路上のゴミを見るような目になっていないのでしょうか。バンクーバーのホームレス問題は街の高級化や先住民との歴史などの問題が掛かり合っただけで複雑さを極めています。政府の生活保護及びホームレス対策はお世辞でも効果的だとは言えません。長期間改善を見られない問題に私達は疲弊し、彼らは一人ひとり名前のついた人間ということを忘れ、ホームレスという見慣れた風景として頭から追放したのかもしれない。そして私達は、その無意識の冷たい視線で、住所を失った彼らから、尊厳をも奪い、社会からも追放したのかもしれない。

もちろん、ホームレスという大きな問題は私達一般市民の力で改善できることではないかもしれません。でも視線を意識するだけで、私達は彼らに、奪われた尊厳と帰属感を与えられるのかもしれない。これから、ホームレスの方を見たとき、彼ら一人一人人間であることを意識するために、その人の名前を想像して見てください。ジョンでもエリでもなん

でも構いません。名前がつくと、ホームレスというレッテルよりも、一人の人間とその人間の重みが浮かんでくるかもしれません。そしたら、差別を感じさせない、バンクバーらしい温かい目になれると私は信じています。

第34回 大学部門 上級 第2位  
Johnny Chen  
ジョニー・チェン

## 悪夢の後

日本語スピーチをする前にこんなことをいうのも可笑しいかもしれませんが。僕は、スピーチすること、特に日本語でスピーチするのが大嫌いでした。人の前に立ったり、直接語ったり、注目されたりすることはまるで悪夢のようでした。では、なぜ今ここ、スピーチコンテストにいるかということ、話を遡らせていただきます。

僕にとってトラウマになっている初めての日本語スピーチは何度も忘れようとしてきましたが、未だに忘れることができません。忘れるどころか、このトラウマは頻繁に悪夢のようにふいに頭に思い浮かぶことができます。2020年の一月に僕の高校で、岩手県から来た修学旅行の学生のための全校集会と音楽演奏が始まる直前、先生にこう言われました。

「あ!ちょうどいい、ジョニーって、確か日本語を学んでいるよね。吹奏楽団の紹介スピーチ頼んでもいい?」  
「えー」「じゃあ、頼むよ」というやりとりがありました。

適当すぎる理由で先生に任されて臨時代表として吹奏楽団の紹介をすることになってしまったのです。その時の僕は気が付いたら、集まってきた学生の前に立ち、ステージの上で脂汗まみれの手でポケットから携帯を取りだしました。全身が震えながら自分の書いた情けないほど短いスピーチ原稿をそのまま携帯から読み始めました。「えー、カナダへようこそ、今日の演奏を楽しんでお聞きください」。言い終わったら中途半端なお辞儀をして、「それだけ?」といわんばかりの拍手を聞きながら急いでステージから逃げました。当時の僕はまだ気づいていませんでしたが、この惨めなスピーチは今の弁論会への長い旅の始まりでした。

なぜかということ、2020年二月、長野県の中学生在が僕の高校に来ました。惨めなスピーチから一ヶ月しか経っていないけれども、また同じステージの上で日本語スピーチをしなければならぬ状態になってしまったのです。

先生にまた頼まれた時正直「えー」としか言えなかったが、実は心の中ではわくわくしていました。「これは二回目のチャンスだ! 今回こそ上達して、いいスピーチを見せてやる」と意気込んで、一所懸命に原稿を書き始めました。スピーチの日が来る前に数えきれないほど原稿を書き直しながら、猪突猛進でどこでも独り言で練習するようになりました。そし

て、いよいよ全校集会の日、ステージの上に立ち、視線を浴びて、できるだけ鳴り響く心臓と緊張感を抑えたら「カナダへようこそ!」

二回目の演説が終わった時、高鳴る心臓とまだ収まらない高揚感に陶醉し、その瞬間僕は思い切って決めました。「上達したな、これからも、もっと上に行きたい」。このおかげで、一回目のスピーチのトラウマがあっても2020年から今までオンラインであれ、正式な弁論会であれ、スピーチの旅路を歩んできました。

話は長くなりましたが、ようやく今日の弁論会にたどり着きました。気づけば、ここへの旅も長くなりました。でも、その旅を経験した今の自分だからこそ言えます。あの悪夢のようなトラウマになっている、思い出すだけでたまらなく恥ずかしくなるスピーチは忘れられません。それは決して悪い事ではありません。なぜなら、もしその大事な第一歩を踏み出していなかったとしたら、僕はここにいません。千里の道への第一歩がなかったら、道は存在することができないのです。でもそれより、その肝心な第一歩を忘れてしまったら、今まで積み上げてきた達成感と努力が台無しになります。第一歩を忘れたら、千里の道がどんなに長くなっても、自分の成長と尽力をちゃんと自覚することもできません。僕には悪夢があったからこそ、その後のいい夢には努力の味がします。

皆さんがどんな千里の道を歩いているかはわからないが、これからも第一歩を忘れないでください、悪夢の後のいい夢に成長の味を失わないでください。

第34回 大学部門 上級 第3位  
Yuval Kehila  
ユウアル・ケヒラ

### 「国民国家」を超える世界を想像する

私はバンクーバーに来たのは三年半前でした。イスラエルで生まれましたが、4歳の時からシンガポールで育ちました。祖父母はみんな異なった国から第二次世界大戦の果てにイスラエルに移民して、私の家族は様々な民族的背景を持っています。そのため、若い頃から、「国」または「国民」という概念と難しい関係を持っていました。一生シンガポールで育った私は自分がシンガポール人だと思いませんでした、そして思われませんでした。イスラエルに行っても、性格がアジアっぽくて変だと思われて、他者として扱われた記憶が多いです。父と異なった意見を述べるたびに「イスラエル人ではない!」と言われました。その時にも、愛国心と帰属感は私にとって遠くて不思議な概念でした。そして苦痛に満ちた概念でした。ですが、その経験が無意味であったとは思いません。少しずつ、他の人の持っていた国に関する考え方や気持ちが私にはないということは、自分の特別な力だということに気付きました。

多様な国からの移民や様々な背景を持った人がいるカナダにいる私たちは、その特別な力を持つ人が多いのではないかと私は思います。私たちひとりひとりが持つアイデンティティーは簡単に国の枠で分けられないのではないのでしょうか。つまり、イスラエルかシン



ガポールのパスポートを一つだけ選ばなければならないのは不思議だと思うのです。カナダにいる日本人がカナダのパスポートを取るために、自分の生まれたところのパスポートを放棄しなければならないのは不思議でしょう。パスポートや国家という概念は、現在の世界の私たちの様々なアイデンティティーを説明する枠組みとしてはもうついて来られないのではないのでしょうか。

ですが、現在の世界は国民国家の限界に今更ながら気付いて話し合いを始めたばかりの段階です。カナダの先住民族に対する扱いや、日本のアイヌや在日に対する扱いなど、国民国家は自分の存在を正当化するために、様々な人々の存在する資格を否定してきました。実に、パスポートや国と似たような概念は国家を存続させるためだけの制度です。そしてその奥に隠れている主張は人間の結束ではなく、他者との違いを強調する長い政治的歴史なのではないのでしょうか。しかし現在でも、私たちの多くは根強く 国民国家が不可欠で必然だと考えているのではないかと思います。故に、国民国家の枠を超えるのは長い道のりで簡単ではありません。

では、私たちが今できることは何でしょうか。まず、第一歩として、自分は日本人、シンガポール人、カナダ人 だという考え方をやめてみたらどうでしょうか。一度その考え方を辞めてみれば、国が自国のためと正当化しようとすることに対しても疑問視できるようになるのです。現在、気候変動をはじめとする環境問題や、医療、行政、個人の選択など様々な要因を含む新型コロナウイルス対策などの問題は国内にも国際的にも大きな問題として存在していますが、国の利害関係も影響して なかなか解決に至りません。しかし、単位としての国がなくなればそのような問題は国内問題にも国際問題にもならず、人類の問題として考えられるようになるのです。それができれば、私たちが一人一人、個人的に頭の中で国の枠組みを出て自分が自由になるという特別な力があってこそ、私たちはもっと効率的に現代の問題に挑むことができるのではないのでしょうか。

以上